****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 318 号
－環境・農業・食べ物など情報の交流誌－
2011.09.08（木）発行 山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.yamazaki-i.org
**********発行部数 1190 部**********

□ 目 次 □----------

＜巻頭言＞ 「食料基地」という言葉に対する違和感 渡邊 博
＜読者からの声＞ 富山県・江添良作さんから：出来秋に望む政治の信頼回復
＜速報＞ 山崎農業研究所総会記念シンポジウム（2011/07/23）
3)「風評被害（東海 JCO～フクシマ）を乗り越える経営力を求めて」
農業生産法人てるぬまかついち商店（甘藷・干しいも生産・加工）
代表 照沼勝浩氏（茨城・東海村）
＜イベント案内＞思想史家・関曠野さん講演会（2011/09/24）
『3・11 以後～～原発事故をくぐった日本の将来を考える』
＜お知らせ＞ 山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました
＜編集後記＞ 「安全／危険」とはいったい何か

＜巻頭言＞ 「食料基地」という言葉に対する違和感

仙台平野南部の亘理町、山元町は温暖な気候に恵まれ、東北随一のイチゴ生産地として有名である。東北の湘南とも称されるこの地域は、3.11 東日本大震災で約 8 割のイチゴ農家が壊滅的被害を受けた。もう一度この土地でイチゴ栽培を再開したいと願う農家は少なくないが、全国各地から好条件で栽培ノウハウごとイチゴ農家のスカウト話が来ており、実際移住した農家も出始めている。被災農家への支援にはなるが、被災地の支援にはならない現実に釈然としない思いがある。

震災直後から何度も現地に入ったが、現地を見て回るほど、これまで何気なく使ってきた「食料基地」という言葉になんとなく違和感を覚えるようになってきた。基地という言葉に、その地域の生活や地域社会の絆が見えてこないのである。そもそも、基地とは取替えの利くもの、かりそめなもの、という語感がまとわりつく。東北地方が日本の食料基地を担うようになったのはそんなに

古いことではない。戦前は朝鮮半島や台湾が食料基地であったし、気象条件が悪く、生産性の低い東北地方は食料基地にすらなれなかったのである。

阪神淡路震災後、神戸の港湾機能は韓国釜山にその座を奪われ、様々な企業が中国や東南アジアに生産基地を移し、産業の空洞化が問題になっている。「基地」は簡単にその場所を移してしまうのである。東京から見ると、地方は基地にしか見えないのかもしれない。さすがに近年は地方を軽視する風潮は少なくなったと思うが、今回の亘理・山元のイチゴ農家を巡る動きを見ると、地域社会に視点を当てた復興支援という観点はまだまだ低いのではないかと思わざるを得ないのである。

渡邊　博
山崎農業研究所幹事
yamazaki@yamazaki-i.org

＜読者からの声＞　富山県・江添良作さんから：出来秋に望む政治の信頼回復

今年の米は作柄もさることながら、放射能汚染が心配されている。万一、検出された場合の影響は風評被害にとどまらず、日本人の主食であるだけに深刻な打撃となることは想像に難くない。

富山県でも、消費者の米への放射能汚染の不安を払拭するため、自主検査することとした。検査の対象は早生品種の「てんたかく」と主力品種のコシヒカリである。先日、「てんたかく」の検査結果が発表され、放射性セシウムは検出されなかった。コシヒカリについては 9 月 16 日頃に結果がまとまるようだが、検出されないことを祈るばかりである。

8 月 23 日、政府は東京電力福島第一原発から放出された放射性セシウム 137 は、広島型原発 168.5 個分であったことを渋々公表した。これまで枝野官房長官がくり返してきた「直ちに人体への影響はない」はいったい何だったのだろうか。

インターネットで、東京大学アイソトープ総合センター長の児玉龍彦教授が 7 月下旬に衆議院厚生労働委員会で参考人として意見陳述した際の動画を見た。

http://www.youtube.com/watch?v=O9sTLQSZfwo

児玉教授は、福島第一原発の放射能汚染の規模の大きさや内部被爆の健康への影響を説明し、国会・政治家の無策、怠慢を痛烈に批判している。そして、「食品、土壌、水」の除染を一刻も早く行なうため、日本のもっている最新鋭の機器と民間の技術を結集して取り組んでほしいと強調している。

未曾有の大震災、原発事故、円高・財政再建、その中にあって政府、国会議員、官僚は何をしていたのか。あまりにも情けない。新しく選ばれた野田総理大臣のやるべき仕事は決まっている。直ちにスピード感をもって内閣が一丸となって対処してほしい。また、情報操作はしないでほしい。そのことが信頼回復の早道ではないか。国民ももっと利口にならないと、この危機は乗り越えられない。

江添良作
富山県・山崎農研会員

＜速報＞　山崎農業研究所総会記念シンポジウム
期日：2011 年 7 月 23 日（土）
場所：　東京都新宿区四谷 3－5 不動産会館ビル 5F
テーマ：「東日本大震災と農業・農村」
話題提供者：
1)「農地、農業施設被害とその対策」
山崎農業研究所　幹事　渡邊　博氏
2)「福島－希望への道筋を探りながら」
「大地を守る会」　農産グループ長　戎谷徹也氏
3)「風評被害（東海 JCO～フクシマ）を乗り越える経営力を求めて」
農業生産法人てるぬまかついち商店（甘藷・干しいも生産・加工）
代表　照沼勝浩氏（茨城・東海村）

---

3)「風評被害（東海 JCO～フクシマ）を乗り越える経営力を求めて」
農業生産法人てるぬまかついち商店（甘藷・干しいも生産・加工）
代表　照沼勝浩氏（茨城・東海村）

農産物販売店としていままでに何度か風評被害にあってきた。その都度、商売に影響があった。ホシイモ製造業として農地 60ha、そのうちサツマイモ農地

46ha がある。ホシイモは天日乾燥なので、いちばん風評被害の影響を受ける。今までに、すでに東海村は 1997 年（火災爆発事故）と 1999 年（JCO 臨界事故）の 2 回の事故に遭ってきた。しかし、ここ東海村は日本の原子力発祥の地である。補助金もあって豊かな行政を行っている。新住民の増加も地域の特色である。このような中で原発に対する批判は難しい。原発反対では生活できない状況の町である。

風評被害はその時からすでにあった。東海村はその名前だけで風評被害の地域になるほどであった。テレビでの発言はいちばん影響がある。イメージを壊してしまう。週刊誌などの無責任な話が原因となることもある。新聞などの写真、その中に商店名が読めるものがあると、それが風評につながった。このような根拠のない風評には行動を起こした。生産者が安全、安心のためのシャツをつくって安全を PR した。「元気まんまん塾」をたてて食の安全・安心のための勉強会をつくった。さらに新商品「いもビール」、「元気まんまんビール」などを開発して安全性を PR した。一方、製品の一層の品質向上を図った。

栽培には化学農薬に猛毒なものもあって、周囲から苦情が出ていた。農業は環境破壊という風評すら出た。そこで農薬、化学肥料を使わない有機農法を推進した。無肥料、無農薬という全くの自然栽培を行い、収量は落ちて 20%くらいの収穫になった。それでも続けるほか無かった。さらに「ほしいも学校」をつくり栽培方法を研究した。長年、化学薬品による土壌消毒に頼ってきた農法を自然栽培に変えてた。しかし、もすぐには成功しない。それには「土づくり」が大切であることを知った。緑肥鋤込み栽培の成功によって極めて品質の高い「ほしいも」となった。

今回の 3 月 11 日の福島事故の時点では、今までの「臨界事故」の経験を生かして、すぐにセシウム、ヨウ素などを測定した。地域の農家では収穫された野菜を念のために洗って出荷するなどして「安心」を得る努力をした。今、福島県では給食には県産を使っていない。農産品全品出荷停止となっている。現在も福島の被害状況に対する風評はあまりにもひどい。今後の地域対策として安心・安全をどのように作っていくのかが問われている。 このようななかで、農家も科学に基づいた正確な情報の大切さを強く感じている。風評被害（東海 JCO～フクシマ）を乗り越える経営力、そして商品価値の高い農産物が作れる農業を進めたい。

（文責：安富・田口）

＜イベント案内＞　思想史家・関曠野さん講演会
『3・11 以後～～原発事故をくぐった日本の将来を考える』

「戦前の日本帝国はヒロシマで終わり、戦後の日本株式会社はフクシマで終わった」（関曠野「図書新聞」3011 号より）

3．11 は、私たちに何をもたらし、私たちはどこへ向かえばよいのか。グローバルな歴史的視野で 3・11 以後を考える思想史家・関曠野さんの講演会です。

●9 月 24 日（土）　午後 6 時～8 時終了予定（開場午後 5 時 30 分より）
●会場：調布市文化会館たづくり 8Ｆ映像シアター
（京王線調布駅南口徒歩 3 分）
http://www.chofu-culture-community.org/forms/menutop/menutop.aspx?menu_id=723
●入場、無料
●定員：申込み順 100 名

関曠野さんプロフィール：
1944 年生まれ。評論家（思想史）。共同通信記者を経て、1980 年より在野の思想史研究家として文筆活動に入る。思想史全般の根底的な読み直しから、幅広い分野へ向けてアクチュアルな発言を続けている。著書に『歴史の学び方について』（窓社）、『みんなのための教育改革』（太郎次郎社）、『民族とは何か』（講談社現代新書）などがある。また、共著に『自給再考―グローバリゼーションの次は何か』（農文協）、訳書に『奴隷の国家』ヒレア・ベロック（太田出版）がある。現在、ルソー論（『ジャン＝ジャックのための弁明 ―ルソーと近代世界』）を執筆中。

●主催
調布市西部公民館　〒182-0035　調布市上石原 3-21-6
●お申し込み受け付けは、担当石黒まで以下の電話・ＦＡＸ・メールにてお願いいたします。
TEL 042-484-2531　FAX 042-484-3704
メール　seibuk@W2.city.chofu.tokyo.jp

＜お知らせ＞　山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.125』が発行されました。
今号では、東日本大震災を特集しています。
研究所ホームページから、目次を見ることと、記事の一部のダウンロード（無料）ができます。また、ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

http://www.yamazaki-i.org

目次（抜粋）
《土と太陽と》（巻頭言）
東日本大震災と農業・農村復興……安富六郎
〔特集〕どう向き合うか 東日本大震災
・被災地を歩いて―災害の被害者から復興の当事者へ……小泉浩郎
・東日本大震災による農地と農業インフラの被災状況……渡邊 博
・土壌の放射能汚染をどう考えるか
　―現場での対応を中心に……編集部・森敏
・エネルギーは社会の根本問題……関 曠野
・震災から森と住まいの文化を考える……大内正伸
・大震災と住民自治……鳥越皓之
・「持続型地域」建設ビジョンをどう描くか……千賀裕太郎
・引き受けるものと選択するもの……宇根 豊

＜編集後記＞　「安全／危険」とはいったい何か

東日本大震災から 5 か月以上が経過した。だが、復旧・復興はなかなかすすまない。それにくわえて東京電力福島第一原発事故はいまだに収束していない。放射能汚染に対して除染活動も始まりつつあるが、除去した土壌や瓦礫あるいは下水汚泥などの処分問題は未解決のままである。

収穫の秋、味覚の秋はすぐ目の前だが、それを去年までと同じように素直に喜べないのが、「もしかしたら放射能で汚染されているのでは…」と不安に思ってしまうのが、なんとも悔しい。放射能は味も色も臭いもないだけによけいに腹立たしくなる。

哲学者の内山節さんは「『安全／危険』の概念が適用できるのは自分自身で判断可能なもの」だという。人間は長い歴史を通じて、たとえば「高いところ」や「火」に対してその有効性と危険性を判断できるようになった。人間が歴史的に蓄積してきた身体の経験で判断できない場合、それ自体が「危険」なのである。

原発という巨大システムは専門家集団によって成り立つ。近代以前の技術であれば、設計から施工、利用そして修復まで素人が自分でやるものであった。たとえ壊れることがあっても決定的なことにはならなかった。しかし原発の場合、いったん事故が起こればその被害ははかりしれないし、素人には事故を止める術もない。そして専門家とは「その領域からしか物事を考えられない人びと」であるがゆえに間違った判断を下すこともあるのだ（2011.6.25 講演「哲学は未来をどう語れるのか」）。

産業・経済への影響に配慮し停止中の原発を再稼働すべきだという声が聞こえるようになった。北海道電力では泊原発が営業運転を再開したが、原発を推進しようという人たちにとって「安全／危険」とはいったい何なのか。もしかしたら「自分だけは何があっても安全」、それくらいにしか考えていないのではないか。

2011 年 09 月 08 日

山崎農業研究所会員・田口　均
yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考――グローバリゼーションの次は何か』
（発売：2008/11　定価：1,575 円 ）
http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/
たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ
http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html
◎戎谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記　“あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を
http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/
◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました
http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182
◎関良基さん（拓殖大学政経学部）
ブログ：代替案　書評：『自給再考　－グローバリゼーションの次は何か』
http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0
◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）
ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」
http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive
◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か
http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html
◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
http://www.rircl.jp/shiryo.htm
◎日本農業新聞／書評
（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎小谷敏さん（大妻女子大学）
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）
http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219
◎白崎一裕さん（（株）共に生きるために）
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）
ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
3、1 回 1 テーマ、10 行位に。
4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 319 号の締め切りは 09 月 20 日、発行は 09 月 22 日の予定です。

＜本誌記事の無断転載を禁じます＞
****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 318 号
最新号・バックナンバーの閲覧
http://archive.mag2.com/0000014872/index.html
http://nazuna.com/tom/denshico.html
購読申し込み／解除案内
http://www.yamazaki-i.org
2011.09.08（木）発行 山崎農業研究所＆編集同人
mailto:yamazaki@yamazaki-i.org
**********ここまで『電子耕』**********